

外傷性色素沈着症・太田母斑・異所性蒙古斑に対する治療を

ピコ秒レーザーで受ける方へ

説明・同意書

ピコ秒レーザーとは、ピコ秒（1 ピコ秒=1 兆分の 1 秒）という短い時間レーザー光を照射する機械です。照射時間を短くかつ最大出力を高くすることで、色素斑等のメラニンに対して、瞬間的にエネルギーを伝えることができます（光音響作用）。そのため従来のレーザー機器に比べてより少ない回数での色調改善が期待でき、照射後の副作用（炎症反応や色素沈着）を軽度を抑えることが可能と考えられています。

治療が受けられない方・禁忌

- ・過去のレーザー治療や紫外線治療で副作用のあった方、または光線過敏症のある方
- ・光線過敏症を誘発する薬剤・外用薬を使用中（例：一部の降圧剤、湿布薬）
- ・ケロイド・瘢痕体質の方、糖尿病や膠原病のため創傷が治りにくい方
- ・抗がん剤、ステロイドや免疫抑制剤の注射・内服中
- ・出血性疾患に罹患、抗凝固薬を内服中
- ・妊娠中・またその可能性がある、授乳中
- ・発熱している・全身状態が良くない

治療を行えない部位

- ・感染性の皮膚疾患または、傷・皮膚炎などの病変がある
- ・1 カ月以内の強い日焼け部位

麻酔について

- ・痛み軽減のため、治療 1 時間以上前から表面麻酔のテープを貼ってまいります。

治療前注意事項

日焼けをした状態では炎症や色素沈着を生じるリスクが高く、照射ができません。

SPF30・P A+++以上の日焼け止めの使用や、（できればUV カットの）帽子・衣類を着用して照射予定部位の日焼けを予防してください。

市販のサンオイルや美白化粧品・ピーリング剤などを使用している方は、少なくとも照射の1ヶ月前から照射部位周囲への使用を控えてください。他院やエステサロンやでのシミ取り・シワ取り施術や脱毛なども行わないでください。

※日焼けしていたり皮膚炎を起こしている方は、落ち着いてからの照射となります。

照射部位に日焼け止めや化粧品（クリーム、化粧水含む）が残っていると、レーザーが成分に反応して炎症を起こすおそれがあります。照射前には必ず落としてから麻酔のテープを貼ってください。

時計・アクセサリー等の貴金属類は事前に外していただきます。

治療中注意事項

レーザー光から目を保護する為にゴーグルを着用します。照射中は外さないでください。

目を閉じた状態でも眩しく感じることもあります。眼に影響はありません。
通常と違う痛みを感じる、ヒリヒリするなど違和感がある場合はお知らせください。

治療後注意事項

- 照射直後は疼痛が強いため、アイスパック等でクーリングを行ってから帰宅していただきます。
- 当日は入浴をせず、シャワー浴のみとしてください。飲酒・多量に発汗する激しい運動も控えてください。
- 照射部位は入浴洗顔時に強く擦ったりせず、優しく洗浄して下さい。洗顔後にプロペトを薄く塗布し、マスクで隠れない部位は次回受診まで絆創膏で保護してください。
 - ※治療当日は水疱になったり浸出液が出やすいので、治療部位を掻いたりしないでください。
- 照射部位に一過性の腫れや赤みが残ることがあります。茶色く薄いかさぶたができることがあります。通常は1週間から10日前後で自然にはがれます。その後は外出時に日焼け止めを重ね塗りして色素沈着を予防して下さい。
- 照射後の状態を観察させていただくため、1週間後・1ヶ月後の再診予約をお取りします。
レーザー照射日から数えて3ヶ月後の再診時に、2回目以降の照射の必要の有無を判定します。

保険収載について

適応疾患	治療回数	治療間隔
太田母斑	回数制限なし	3カ月
異所性蒙古斑	回数制限なし	3カ月
外傷性色素沈着症	回数制限なし	3カ月

例：初回治療が4月1日の場合、次回の治療は7月2日以降となります。90日間が空いていても7月1日では保険は使えません。

合併症について

【色素沈着】

擦れやすい・日焼けしやすい箇所は色素沈着のリスクが高くなります。

【色素脱失】

色調が濃い場合は熱損傷や頻回の治療を行う事により発生します。

【瘢痕】

元の体質や、出力・短期間の照射間隔に伴うリスクがあり、個人差があります。

【その他合併症】

かさぶた・水疱形成、赤み・腫れ・痒みなどの皮膚炎症状

以上の注意点や予想される合併症・注意事項について確認された上で、治療を受ける事に同意される場合は、下記に署名をお願い致します。なおこの同意につきましては、治療開始までにご希望に応じていつでも撤回することができます。

谷口病院院長殿

私は、上記の内容を理解し、レーザー治療を受けることに同意致します。

年 月 日

氏 名